

プロトコール名

ベクティビックス+mFOLFOX 6

 進行・再発癌 術後補助化学療法 術前補助化学療法 大量化学療法 局所療法 その他()

投与順	抗癌剤名(商品名・略号)	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日(d1, d8等)
1	パニツムマブ(ベクティビックス)	6mg/kg	div	1時間	d1
2	オキサリプラチン (エルプラット・L-OHP)	85mg/m ²	div	2時間	d1
3	レボホリナート(レボホリナート・L-LV)	200mg/m ²	div	2時間	d1
4	フルオロウラシル(5-FU)	400mg/m ²	div	15分以内	d1
5	フルオロウラシル(5-FU)	2400mg/m ²	ci	46時間	d1~2
6					

1コース期間(次コースまでの標準期間)	2週間
総コース数	可能な限り
コース間での休薬の規定	G3、4の好中球減少、末梢神経障害、アナフィラキシーショック

減量規定・中止基準	G3、4の好中球減少、末梢神経障害、アナフィラキシーショック
投与量の増量規定	なし
投与期間の短縮規定	なし
コースによる変化	なし
1日の中での抗癌剤投与順	ベクティビックス → エルプラット・レボホリナート → 5-FU
プレメディケーション・ポストメディケーション	グラニセトロン3mg、デキサメタゾン8mgをベクティビックスとエルプラットの間に投与。 Infusion reactionが出現した場合には前投薬を考慮

患者条件(初回投与)

※NCI-CTCAE v4.0

- ・PS 0~1
- ・主要臓器機能が十分保たれている
- ・KRAS遺伝子野生型が証明された進行再発大腸癌の患者

除外規定

- ・個々の薬剤にアレルギーを有する患者

実施上の注意点

ベクティビックス

- ・重度(G3以上)の皮膚障害発現時には下表を目安に用量を調節すること。
- ・重度(G3以上)のInfusion reactionが現れた場合投与を中止し、再投与しないこと。G2以下のInfusion reactionが現れた場合は、投与速度を減じて慎重に投与すること。
- ・インラインフィルターを使用すること。
- ・調製時は生理食塩液に添加し全量を100mLとすること。
- ・点滴時間は60分以上、1回投与量が1000mgを超える場合は全量を150mLとし、90分以上かけて投与すること。

その他(特記事項)

- ・エルプラットの調製時には5%糖液をを使用する
- ・ベクティビックスの用量調節の目安

皮膚障害発現時の本剤の投与量	本剤の投与	投与延期後の状態	本剤の用量調節
6mg/kg	投与延期	6週間以内にG2以下に回復	6mg/kg又は4.8mg/kg
4.8mg/kg	投与延期	6週間以内にG2以下に回復	3.6mg/kg
3.6mg/kg	投与中止		